

# 兵庫版道徳教育副読本 教師用指導書

こころ はばたく（小学校1・2年）



兵庫県教育委員会

【p 10～ p 13】 しゆく川公園

## 1 資料活用にあたって

- 本資料は、1年生の4月または2年生の4月に使用することになるが、1年生の4月に用いる場合は、長文のため紙芝居や場面絵をもとに語り聞かせるなど工夫して、話の筋を理解させるとよい。
- 本資料は、身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接しようとする意欲を育てようとするものである。自然環境を考えるのは高学年で、自然愛護、環境保全を考えるのは中学校の段階である。

## 2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：たけし（子どもがたけしになって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：まなちゃんのおじいちゃんの話
- 変化するところは：「そうやったんや。」

## 3 読み物資料の素材について

### 【参考URL】

- ・ 西宮市環境局環境緑化部公園緑地グループ  
<http://www.nishi.or.jp/homepage/hana/sakura/>
- 夙川公園の桜について
  - ・ 夙川公園は、南北約2.7kmの河川敷の両岸に桜と松の並木が続く「日本さくら名所百選」の一つに選ばれた兵庫県でも有数の桜の名所である。「日本さくら名所百選」には、県内から姫路城と明石公園の桜も選ばれている。
  - ・ 小さな苗木がみごとに花をつける大木になるためには、木の生命を支え、見守る人たちの働きが大きい。現在、西宮市土木局公園緑化部公園緑地課がその仕事を担っている。美しい自然を維持するため、「桜の木の手入れ」を計画的に行っている。「手入れ」のほとんどが、弱くなっている桜に対する処置である。①枯れ枝の剪定、②土壌改良、③苗木の植え付け、④夏場の水やり、⑤病気や老いた桜の世話等である。
- 桜の育成について
  - ・ 桜の苗木を植える時期は、12月から2月下旬である。植えてすぐは、根がしっかりつくように支柱で固定し、周囲をロープで囲み、立ち入らないように表示する。苗木の周囲の土が踏み固められると土がしめつけられ、土の中の酸素が足りなくなり、根が弱る原因になるからである。
  - ・ 苗木を植えて三年間程は、3日に一度桜の葉の色の変化に気をつけ、順調に生長しているかを見守っている。特に夏場の水やりは欠かせない。苗木の周囲に土を盛り上げその中に水をたっぷり入れる。
  - ・ 花つきが悪く弱っている桜は、樹木医（木のお医者さん）の診断を受ける。樹木医が診断し、対策をたてる。病気になったり弱ったりする木の症状にはいろいろある。根や幹に菌が入りコブができた木、虫が入り込んだ木、水が足りなくて枯れた木、塩害にあった木、排気ガスにあった木等である。対策として、菌を取り除いたり、根を切除したりする。
  - ・ ソメイヨシノの寿命は約50年である。

## 4 展開の具体例

- ・ **主 題 名** ・ 動植物を大切に D (18)
- ・ **資料の概要** ・ いつものように遊びに出かけたたけしは、夙川公園で苗木を植えているまなの祖父を見つける。たけしはまなの祖父との会話を通して、「根が呼吸している」「年をとる」「病気になる」「医者にかかって手当をする」という事実を知り、共に生きているものとして桜の木に愛おしさを感じる。苗木をなでながら、笑顔で話すおじいちゃんの話聞き、たけしは、木が大きくなっていく姿を想像しながら、晴れ渡った空を見上げる。
- ・ **ね ら い** ・ まなのおじいちゃんの話聞いて道徳的に変化するたけしを通して、動植物に優しい心で接しようとする道徳的実践意欲を育てる。

・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・ 今日の資料に興味を持つ。	副読本P12の写真(夙川沿いの桜)を見ましょう。
展 開	・ 資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・ 目をぱちくりさせた主人公の気持ちを考える。	目をぱちくりさせたたけしは、どんなことを思っているのでしょうか。 ・ おどろいたな。さくらが呼吸をしているなんて。 ・ 動かないのに、本当だろうか。
	・ 「そうやったんや。」と言った時の主人公の気持ちを考える。	「そうやったんや。」と言いながら、たけしは、どんなことを考えているのでしょうか。 ・ 木も人間と同じように年もとるし、病気にもなるんだ。 ・ 木を大切に守っている人達がいるんだ。 ・ みんなで木を大切に育てているんだ。
	・ 晴れわたった空を見上げる主人公の心の動きを考える。	晴れわたった空を見上げながら、たけしはどんなことを考えているのでしょうか。 ・ この苗木が大きくなるのが楽しみだな。 ・ ぼくも見守っているからね。 ・ ぼくと一緒に大きくなろうね。 ・ ぼくも桜の木にやさしくしたいな。
終 末	・ 感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

桜も呼吸することを知り、「桜が生きていること」を意識し始めた主人公の心を考えさせる。

おじいちゃんの話がきっかけとなり、桜を愛おしむ意識が主人公に起こっていることをおさえる。

桜を愛おしむ意識が高まり、「ぼくも木に優しい気持ちで接しよう」という実践意欲を強めていることをおさえる。

【p16～p19】 長田の町にガオー！ —横山光輝—

### 1 資料活用にあたって

- 1年生で実施する場合は、難しい言葉もあるので、教師が適宜解説をしながら、話を理解させる。
- 本資料は、震災にもめげず長田の町を愛した人たちの話である。これを通して子どもたちが自分の住む町が好きになるように指導の工夫をする。

### 2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：たろう（子どもがたろうになって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：おじさんの話
- 変化するところは：「ぼくも てつ人になりたいな。」

### 3 読み物資料の素材について

#### 【参考URL】

- ・ KOBE鉄人PROJECT  
<http://www.kobe-tetsujin.com/index.html>

#### 【訪れたい場所】

- ・ 鉄人28号モニュメント（若松公園） JR新長田駅南

#### ○ 鉄人28号のモニュメントについて

- ・ 神戸市出身の漫画家横山光輝の作品の魅力で長田のまちの活性化を図ろうと、地元商店街などが中心となって特定非営利法人（NPO法人）「KOBE鉄人PROJECT」を立ち上げ、平成21年10月に、鉄人28号の巨大モニュメントをJR新長田駅南側にある若松公園に完成させた。

#### ※ 鉄人28号モニュメント概要

- ・ 鉄骨構造（耐候性鋼板仕上げ）
- ・ 高さ 15.3メートル（直立想定18メートル）
- ・ 総重量 50トン
- ・ 胴囲 20メートル
- ・ 足のサイズ 4メートル
- ・ 顔の長さ 2.2メートル

#### ○ 鉄人28号について

- ・ 横山光輝の漫画作品である鉄人28号は、昭和31年に月刊誌「少年」に連載が開始された。その後ラジオドラマ、テレビアニメ化されるなど、横山光輝の漫画の代表作となった。

#### ※ ストーリー

太平洋戦争の末期、陸軍が秘密兵器として敷島博士に開発させた巨大ロボット「鉄人28号」が戦後に現れ、主人公の少年探偵金田正太郎のリモコン操作によって、鉄人28号の力で次々と現れる犯罪者や怪ロボットを倒して平和を守る。

#### ○ 横山光輝について

- ・ 昭和9年、神戸市須磨区に生まれた横山光輝は、神戸市立太田中学校在学時代から漫画を描きはじめ、神戸市立須磨高等学校在学中に、「漫画少年」等の雑誌に投稿するようになった。高校卒業後は、銀行に就職するが、漫画への情熱から退職し、映画宣伝の仕事などをしながら漫画家をめざした。
- ・ 昭和30年に「音無しの剣」で漫画家デビューを果たし、翌年から連載が始まった「鉄人28号」が大ヒットした。平成3年、「三国志」で日本漫画家協会賞優秀賞を受賞。平成16年逝去。

#### ※ 主な作品

「鉄人28号」「ジャイアントロボ」「仮面の忍者 赤影」「魔法使いサリー」  
「コメットさん」「三国志」「水滸伝」「項羽と劉邦」

## 4 展開の具体例

長田の町にガオー！

- ・ **主 題 名** ・わたしたちの町のために C (15)
- ・ **資料の概要** ・公園にそびえ立つ鉄人28号を見上げたたろうは、その雄大な姿に圧倒される。声をかけてきたおじさんから、「阪神・淡路大震災からみんなの力で復活させた長田のまちをもっと元気にしたい、長田のまちが好き。」という人々の思いをこめてモニュメントが作られたことを教えてもらったたろうは、自分たちのまちへの思いをこめて手をつき上げる。
- ・ **ね ら い** ・おじさんの話を聞いて道徳的に変化するたろうを通して、郷土へ愛着を深め、親しみを持って生活しようとする道徳的実践意欲を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本P17の写真(鉄人28号のモニュメント)を見ましょう。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の範読を聞きながら黙読をする。</li> <li>・鉄人28号を見上げた時の主人公の気持ちを考える。</li> <li>・おじさんの話を聞き、もう一度鉄人を見上げた時の主人公の気持ちを考える。</li> <li>・「ガオー！」と空に手を突き上げた時の主人公の気持ちを考える。</li> </ul>	<p>ロボットを見上げながら、たろうはどんなことを考えているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すごい、でっかいな。</li> <li>・カッコいいな。</li> <li>・なんでこんなでっかいロボットがここにいるのかな。</li> </ul> <p>「ぼくもてつ人になりたいな。」と言いながら、たろうくんはどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくも、このまちを元気にしたいな。</li> <li>・みんなにこのまちをもっと好きになってもらおうぞ。</li> </ul> <p>「ガオー！」と空に手を突き上げた時、たろうはどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長田のまちをもっともっと元気にするぞ！</li> <li>・ぼくにまかせておいて！</li> </ul>
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

ロボットを見上げた時の主人公の驚きや感動と不思議に思う心に共感させる。

おじさんの話がきっかけとなり、郷土愛の意識が主人公に起こっていることをおさえる。

郷土愛の意識が高まり、主人公が「自分も長田のまちを元気にしよう」という実践意欲を強めていることをおさえる。

【p22～p25】 ゆめをもって —沖中重雄—

### 1 資料活用にあたって

- 「夢」がテーマの資料であるが、低学年の内容項目A(5)では、夢に向かってがんばる気持ちを育て、がんばることができた自分に気付くことができるようにすることが大切である。
- 1年生で実施する場合は難しい言葉もあるので、教師が適宜解説をしながら、話を理解させる。

### 2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：ぼく（子どもが「ぼく」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：おぼさんの沖中重雄の話
- 変化するところは：「がんばることか。」

### 3 読み物資料の素材について

#### 【参考文献等】

- ・ 『沖中重雄先生の 夢 —医の道に学ぶ』 沖中重雄先生顕彰会編（非売品）
  - ・ 「私の履歴書」（日本経済新聞社に昭和46年7月13日～8月10日連載）
- 沖中重雄について
- ・ 沖中重雄は、陸軍軍人である父太田米丸の厳格なしつけのもとに育ち、親同士の話し合いがあって、父のいとこ姫路の医者沖中盤根の養子となり、その娘と結婚し、沖中姓となった。
  - ・ 1928年東京帝国大学医学部を卒業した後、内科医局に入り、呉建教授に師事した。<sup>\*1</sup>自律神経系の研究を行い、内科学の専門分科を主張して神経内科を確立した。
  - ・ 1946年、戦後に新設された第三内科の初代教授となり、その隆盛の基を築いた。東京大学での最終講義で、剖検（死後の病理解剖）によって確かめられた教授在任中の誤診率が14.2%であったと発表して話題を呼んだ。<sup>\*2</sup>その後、虎ノ門病院院長、沖中記念成人病研究所理事長を歴任し、自律神経系の実験的・臨床的研究を行い、神経病学の確立に努めた。
  - ・ 1963～68年内廷医事参与（宮内庁）として天皇ご一家の健康に奉仕（昭和天皇の主治医）
  - ・ 谷崎潤一郎、吉川英治、川端康成、江戸川乱歩各氏の主治医も努め、時の石橋湛山内閣総理大臣は診察の結果、沖中の助言により、勇退したと言われている。
  - <sup>\*1</sup>：呉教授は自律神経系の研究で国際的な仕事をした学者である。呉先生は分厚いドイツ語の本を手渡し「明日の朝までに翻訳して抄録してこい」と、沖中を学者として徹底的に鍛えた。
  - <sup>\*2</sup>：一般の人々は、沖中にしてその程度の診断率かと驚いた人が多かったが、医師たちの反応は、その逆で、その成績を発表された学問的姿勢の真摯さに驚き、賞賛したと言われている。
- 沖中重雄顕彰碑について
- ・ 姫路市東山の大歳神社境内に2000年に建立された。
  - ・ 顕彰碑に刻まれた文字「夢」の大書は、沖中が最も好んだ言葉であり、「医学の進歩」に尽くし、「医の倫理」を身を持って示した熱き想いがこめられている。
- 沖中重雄の言葉
- ・ 「私は夢という字が好きである。どんな環境におかれても、一生、何か夢を持ちながら生きていくことが、その日その日を有意義に送る糧であると信ずるからである。」
  - ・ 「与えられた環境が私に適していたことと同時に、一方ではその中で、まじめに精いっぱい努力を重ねてきた。これが、私の進むべき道だと心に決めて手綱をゆるめることは全くなかったと言っていい。苦しみに耐え、勝ち抜くがんばりの精神が、私のささえであり、唯一のとりえでもある。」

## 4 展開の具体例

ゆめをもって —沖中重雄—

- ・ **主 題 名** ・ ゆめにむかって A (5)
- ・ **資料の概要** ・ 町たんけんに行ったぼくは、地域のおばさんから「夢」とかかれた石碑のことを教えてもらう。大好きなサッカー選手になりたいと思っているが、自信がなく下を向く。「夢」の字を書いた沖中先生が医学の進歩のために一生懸命努力したことを聞いたぼくは、努力することが夢に近づく第一歩だと気づき、自分も頑張ろうと空を見上げる。
- ・ **ね ら い** ・ 地域のおばさんから沖中先生の話聞いて道徳的に変化するぼくを通して、夢を持ち積極的に努力していこうとする道徳的実践意欲を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・ 学習する道徳的価値に興味を持つ。	あなたの好きなことは何ですか。
展 開	・ 資料の範読を聞きながら黙読をする。	
	・ おばさんから「ゆめ」という言葉を聞いた時の主人公の気持ちを考える。	おばさんから「ゆめ」と読むことを教えてもらったぼくは、どんなことを思ったのでしょうか。 ・ ぼくの夢は、サッカー選手になることだ。 ・ この字は誰が書いたのかな。
	・ サッカーがうまくできない自分を思い出し、下を向く主人公の気持ちを考える。	下をむいてしまったぼくは、どんなことを考えているのでしょうか。 ・ サッカーは好きだけど、上手くないもんなあ。 ・ ドリブルやシュートが下手だもんなあ。 ・ 好きなだけじゃあだめなのかなあ。
	・ おばさんの話を聞いた時の主人公の気持ちを考える。	「がんばることか。」と言いながら、ぼくは、どんなことを考えているのでしょうか。 ・ りっばなお医者さんでも、うまくいかないことがあったんだなあ。 ・ 毎日ががんばることが大事なんだなあ。 ・ がんばることが夢につながっているんだなあ。
	・ 空を見上げて、虹を見ている主人公の気持ちを考える。	空を見上げて、きれいな虹を見ながら、ぼくはどんなことを考えているのでしょうか。 ・ さあ、今からいっぱい練習するぞ。 ・ 大好きなサッカーをがんばっていこう。 ・ ぼくの夢は、まだ始まったばかりだぞ。 ・ 夢にむかってがんばるぞ。
終 末	・ 資料（堀江謙一さんのメッセージ）の範読を聞きながら黙読をする。	副読本のP26～P27を読みましょう。

夢という言葉聞いて、自分の好きなことを思い浮かべている主人公の心に共感させる。

主人公が夢の実現からは遠い自分の姿を嘆き、くじけず努力しようとする意識が低くなっていることに気付かせる。

おばさんの話がきっかけとなり、前向きに努力しようという意識が主人公に起こっていることをおさえる。

前向きに努力しようという意識が高まり、主人公が「夢に向かってがんばって練習しよう」という実践意欲を強めていることをおさえる。

【p28～p31】 アサザのさく池 一天満大池—

## 1 資料活用にあたって

- 長文のため、紙芝居や場面絵をもとに語り聞かせるなどの工夫をして、話の筋を理解させるとよい。
- 本資料は、身近な自然に親しみ、植物に優しい心で接しようとする意欲を育てようとするものである。低学年のD（18）の内容項目は、子どもの発達段階を考慮して、優しい心で動植物に接するというところに主眼がある。自然環境を考えるのは高学年で、自然愛護、環境保全を考えるのは中学校の段階である。

## 2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：かずちゃん（子どもがかずちゃんになって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：母の話
- 変化するところは：「そうだったのかあ。」
- ※ アサザの花をもう一度見たときに実践意欲が生じている。

## 3 読み物資料の素材について

### 【参考文献等】

- ・ 『天満大池のアサザの保護』 兵庫県三木土地改良事務所編
- ・ 『東播磨ため池マップ いなみ野ため池ミュージアム』 いなみ野ため池ミュージアム運営協議会事務局編
- 天満大池の概要
  - ・ 稲美町にある天満大池は675年に築造されたといわれ、兵庫県では最も古いため池である。
- アサザについて
  - ・ 天満大池には絶滅の恐れがある水生植物「アサザ」が生育している。兵庫県では天満大池や淡路など数カ所しか確認されていない。兵庫県版レッドデータブックによると、2009年にBランクに区分されるまではAランクとして絶滅危惧種に相当していた。そのため、保全の必要性が高い種であった。
  - ・ アサザはミツガシワ科の多年草で、夏には黄色い花を咲かせる。かつてはため池や水路などに群生していたが、池の埋め立て工事や水質の悪化などにより、ここ10年ぐらいの間に急速に減少してきた。
- 天満大池に生息する水生植物の保全について
  - ・ 天満大池から姿を消していたアサザが改修中の池で発見され、再び姿を現したことから、このアサザを保護しようと行政、自然保護団体、地域住民たちが協力し、地域あげてのアサザの保護活動が高まってきた。
  - ・ アサザはきれいな水辺の環境で育つ。アサザを育てることは、美しい自然環境を守るということにもつながっていく。

## 4 展開の具体例

### アサザのさく池 —天満大池—

- ・ **主 題 名** ・ 自然を大切に D (18)
- ・ **資料の概要** ・ ある日、かずちゃんは、お母さんから天満大池の水面に咲くアサザがなくなって絶滅したと聞いて驚く。アサザを大切に育てたいと願う人たちの努力によって、再び生息するようになったことを知ったかずちゃんは、今まで何げなく見ていたアサザの美しさを再認識し、大事に守り育てようとする。
- ・ **ね ら い** ・ 母から人々が守り育てた話を聞き、道徳的に変化するかずちゃんを通して、身近な自然に親しみ、動植物を大切にしようとする道徳的実践意欲を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	アサザという水草を知っていますか。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・アサザを持ち帰ろうとした主人公の気持ちを考える。	「かぶをもって帰ろうよ」と言った時、かずちゃんはどんなことを思ったのでしょうか。 ・きれいなアサザを自分の家でも見たいな。
	・以前にアサザが池から消えたことを知った主人公の気持ちを考える。 ・お母さんの話を聞いたときの主人公の気持ちを考える。	「アサザがきえちゃったの？」と言ったかずちゃんはどんなことを思ったのでしょうか。 ・どうして消えちゃったのかな。 ・きっとみんなは悲しんだらう。
	・アサザをもう一度見た時の主人公の気持ちを考える。	「そうだったのかあ。」と言いながら、かずちゃんはどんなことを思っているのでしょうか。 ・何年も探し回ってたいへんだったんだね。 ・たくさんの人が力を合わせて育ててきたんだね。 ・みんながアサザを大切に守ってきたんだ。
		アサザをもう一度見た時、かずちゃんはどんなことを考えていたのでしょうか。 ・アサザのかぶを持ち帰ろうとしたわたしは、アサザを大切にしようとしていなかったな。 ・わたしもアサザを守っていきたい。 ・みんなの心をつないでいるアサザを大切にしたい。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

主人公は何気なく「もって帰ろう」と言ったことをつかませる。

アサザが消えてしまったことを不思議に思っている主人公の心を考えさせる。

お母さんの話がきっかけとなり、植物を大切にすることを意識が主人公に起こっていることをおさえる。

植物を大切にすることを意識が高まり、主人公が「私もアサザを大切にしよう」という実践意欲を強めていることをおさえる。

【p 36～p 39】 からのえんどう —森はな—

## 1 資料活用にあたって

- 本資料では、まさともはなも、道徳的に変化している。はなを主人公とした場合、内容項目はB（9）、まさとを主人公にした場合、内容項目はA（1）になる。どちらを主人公にするかを明確にし、主人公の変化を中心に授業を展開することが大切である。

## 2 資料の読み方のポイント

- ※ 展開の具体例は、はなを主人公（内容項目B（9））と想定したものを示している。）
- 変化するのは：はな（子どもが「はな」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：まさとがくれたなかよくならんだふえを見たこと
- 変化するところは：「そっと口にあててふいてみました。」
- ※ 翌日、まさとのそばによってぎゅっとにぎりしめていた手をひらいた時は、はなはもうまさとを許している。

## 3 読み物資料の素材について

### 【参考文献等】

- ・ 『じろはったん』 アリス館、1982年
- ・ 『いとおしむ』（森 はな 追悼文集） 追悼文集編集委員会編、森はなをしのぶ・ささゆりの会、1990年
- ・ 『ふるさとの語り部 森はな・人と文学』 森はなをしのぶ・ささゆりの会編、神戸新聞総合出版センター、1997年
- ・ 『森はな—おばあちゃんは児童文学作家になった。—』 姫路文学館、1993年

### 【参考URL】

- ・ じろはったんの会  
<http://jirohati.html.xdomain.jp/>

### 【訪りたい場所】

- ・ 朝来市立和田山図書館（079-672-1700）  
※ 館内には「森 はな コーナー」がある
- ・ 姫路文学館（079-293-8228）

### ○ 森はなについて

- ・ 養父郡大蔵村（現朝来市和田山町）に生まれる。生家は酒類販売の商家で農業も営み、多くの使用人の子どもたちと分け隔てなく育てられた。7人兄弟の真ん中（姉1人、兄2人、妹2人、弟1人）。両親を早くに失い、兄はニューギニアで戦死。また作品の良き理解者であった長男を1985年の日航機墜落事故で亡くす。人生は苦難の連続であった。
- ・ 兵庫県明石女子師範学校を卒業し、小学校教員となった。学校劇に力を注ぐ。赴任先の高砂市・伊保小学校にて「お祭りに来た兄弟」（1952年）、「峠のお祭り」（1953年）がNHK近畿学校劇コンクール最優秀賞を受賞した。
- ・ 故郷の但馬や播磨で小学校の教師を務めた後、64歳のとき、知的障害のある青年と村人との交流を但馬弁で描いた童話『じろはったん』で日本児童文学者協会新人賞を受賞。80歳で亡くなるまで作品を刊行し続けた。
- ・ 『じろはったん』は、英語（黒崎民子訳）とドイツ語（大崎ドロテーア訳）に訳されている。

## 4 展開の具体例

- ・ **主 題 名** ・ 友達と仲よく B (9)
- ・ **資料の概要** ・ 学校の帰り道、吹いていたからすのえんどうをとって逃げたまさとを許すことができないはな。お母さんの言葉にもかたくなになっていたはなだが、「ごめん。」の代わりにまさとの手に握らせた笛を吹くことで、気持ちが落ち着いていく。さらに、次の日に会ったまさとの様子を見て、はなはまさとの気持ちを考えはじめる。
- ・ **ね ら い** ・ 手のひらにはなの笛とまさとが作った笛が仲良く並んでいるのをみて道徳的に変化するはなを通して、友達と仲良くしようとする道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・ 今日資料に興味を持つ。	草笛を吹いたことがありますか。
展 開	・ 資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・ 笛を取られた主人公の気持ちを考える。	笛を取られたはなは、いやいやをしながら心の中で何と言っているのでしょうか。 ・ せっかく作ったのに、返してよ。 ・ まさとくんのいじわる。 ・ はらが立つなあ。
	・ まさとをどうしても許せない主人公の気持ちを考える。	涙が止まらないはなはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・ 絶対にゆるしてあげない。 ・ わるいのはまさとくんなのに。 ・ まさとくんなんか、きらいだ。
	・ まさとからもらった笛をそっと口にあてた時の主人公の気持ちを考える。	まさとにもらった笛をそっと口にあてながら、はなはどんなことを思っていたのでしょうか。 ・ 笛を作ってくれたのは、仲直りのしるしなんだな。 ・ まさとくん、悪いと思ってくれていたんだ。 ・ いつまでも泣いていたら、だめだな。
	・ 下を向いているまさとのそばに行き、手を開いた主人公の気持ちを考える。	だまったまぎゅっと握りしめていた手を開いたはなは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・ 昨日はいつまでも泣いて、ごめんね。 ・ まさとくんが謝ってくれたのはわかっているよ。 ・ 一緒に笛をふこうよ。 ・ これからも仲よくしてね。
終 末	・ 感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。

気持ちよく吹いていたからすのえんどうの笛を取られた主人公の心に共感させる。

まさとのお詫びの気持ちに気付かず、どうしても許せない主人公の心を考えさせる。

仲よくならんだ笛を見たことがきっかけとなり、まさとの思いに気付き、友達のよさを感じ始めている主人公の心を考えさせる。

友達のよさをより強く感じ、「まさとくと仲よくしよう」という気持ちになった主人公の心情の高まりをおさえる。

【p 42～p 45】 一まいの絵 一小磯良平一

### 1 資料活用にあたって

- 学年段階によっては、目の前にある絵画から自分の家族のこと、特に家族の思いを連想させることは難しいので、丁寧にこの箇所を理解をさせる。
- 多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえ、十分な配慮を欠かさないようにする。

### 2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：まさおくん（子どもがまさおくんになって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：小磯さんの絵（二人の少女）と美術館の人の説明
- 変化するところは：「えっ、そうなの……。自分の子どもをかいたの。」

### 3 読み物資料の素材について

#### 【参考文献等】

- ・ 『研究紀要 第1号』 神戸市立小磯記念美術館編、1996年

#### 【参考URL】

- ・ 神戸市立小磯記念美術館  
<http://www.city.kobe.lg.jp/culture/culture/institution/koisogallery/index.html>

#### 【訪れたい場所】

- ・ 神戸市立小磯記念美術館 〒658 神戸市東灘区向洋町中5-7 TEL 078-857-5880

#### ○ 小磯良平について

- ・ 小磯良平（1903年～1988年）は、神戸市の中央区で生まれ、神戸の洋館が立ち並ぶ街の西洋的な空気の中で育った。生家の環境も芸術にあふれており、小さい頃は、鉛筆と紙があれば、黙々と絵を描いて飽きることがなかったという。
- ・ 1917年、小磯は、生涯の親友となった竹中郁と出会い、その友だちの影響を受け、ヨーロッパに向けて関心の眼が開かれた。
- ・ 1922年、東京芸術大学西洋画科に進み、在学中に帝展特選に選ばれ画壇に鮮烈デビュー。
- ・ 1928年、フランス留学に出発し、一足先に到着していた竹中とともに2年間ヨーロッパを遊学した。絵画技法の習得より、各地の美術館めぐり、有名な画家の絵を鑑賞した。
- ・ 神戸に戻り、欧州絵画の古典的な技法を日本の洋画に根付かせる努力をし、独自の画境を開いた。また、母校の東京芸術大学で教鞭をとり、画学生たちの若い感性を大切にした指導で、日本の洋画界に大きく貢献した。

#### ○ 「二人の少女」について

- ・ 副読本P43の絵は、「二人の少女」（1946年）であり、戦後の小磯良平の代表作である。この作品は、小磯が二人の愛娘をモデルに描いた作品である。二人の少女は、祖母の手編みのお揃いのカーディガン、母の手縫いのスカートを着ている。
- ・ 終戦直後に描かれた作品であって、小磯は神戸大空襲で住居とアトリエを失い、仮住まいを余儀なくされており、その仮住まい時代に娘という家族の愛情をテーマに描いた作品である。
- ・ 本作品は油絵であり、背景はさながら洋間のような見せている。

## 4 展開の具体例

—まいの絵—小磯良平—

- ・ **主 題 名** ・ 大好きな家族 C (13)
- ・ **資料の概要** ・ 美術館で目にとまった絵画(「二人の少女」)について、学芸員から小磯良平が娘たちへの愛情の視点で描いた作品であることを聞いたまさおは、家族の笑顔を思い出しながら、お母さんと一緒に作ったお弁当の包みをそっと見る。
- ・ **ね ら い** ・ 小磯さんの絵と美術館の人の話から道徳的に変化するまさおくんを通して、家族を愛し家族に役にたつ喜びを知る道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・ 学習する道徳的価値に興味を持つ。	今朝、家の人とどんな話をしましたか。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の範読を聞きながら黙読をする。</li> <li>・ 「二人の少女」の絵を見つけた時の主人公の気持ちを考える。</li> <li>・ 小磯さんが大好きな自分の子どもを描いたことを知った時の主人公の気持ちを考える。</li> <li>・ 手さげかばんをそっと開けてお弁当の包みを見ているまさおの気持ちを考える。</li> </ul>	<p>本でみたことのある絵を見つけたまさおくんは、どんなことを思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あっ、お父さんが好きな絵があるよ。</li> <li>・ お父さんにもこの本物の絵を見せてあげたいな。</li> <li>・ この二人の女の子は誰なのかな。</li> </ul> <p>「えっ、そうなの…」と言った時、まさおくんは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帰ったら、お父さんにも教えてあげよう。</li> <li>・ 小磯さんは、子どものことが大好きだったんだね。</li> <li>・ お父さんも小磯さんと同じ気持ちだったんだね。</li> </ul> <p>手さげかばんをそっと開けて黄色いハンカチに包まれたお弁当を見ながら、まさおくんはどんなことを考えているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お母さん、ぼくと一緒に朝早くから作ったんだよね。</li> <li>・ 「まさおが手伝ってくれて助かるわ。」ってお母さんが言ってくれたよね。</li> <li>・ ぼくのお父さんやお母さんも、ぼくのことを大切に思ってくれているんだね。</li> <li>・ ぼくもお父さんやお母さんのことが大好きだよ。</li> </ul>
終 末	・ 感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。

P44の1行目に着目させ、主人公が、絵を見てお父さんのことを思い出していることをおさえる。

絵のモデルが小磯さんの子どもであることを知ったことがきっかけとなり、主人公が、目の前の絵とお父さんの気持ちとを重ね合わせていることをおさえる。

お弁当を「そっと見ていること」に着目させ、家族のために役立つ喜びを実感しつつ、家族からの愛を感じている主人公の心情の高まりをおさえる。

## 【p48～p53】 どこんじょうだいこんの大ちゃん

### 1 資料活用にあたって

- 長文のため、挿絵を拡大コピーし、紙芝居にして話の筋を理解させると良い。
- 本資料は、大ちゃんを通して生活や自然の中での生命の力を感じさせることが中心になる。したがって中学校の内容項目で扱う生命倫理や生命の連続性にまで踏み込まなくてもよい。

### 2 資料の読み方のポイント

- 主人公の変化を問う資料ではなく、主人公（さやか）を通して生命を大切に作る心について考える資料であり、さやかの立場で場面を捉えていく。（子どもがさやかになって考えられるように発問を工夫する。）

### 3 読み物資料の素材について

#### 【参考URL】

- ・ 道の駅あいおい白龍城  
<http://peironjo.jp/>
- ・ 新聞記事等  
<http://www.geocities.jp/daruma001jp/dokondaikon.html>
- ど根性大根について
  - ・ 2005年（平成17年）8月、兵庫県相生市那波野の歩道で、大根がアスファルト路面を突き抜けて頭を出しているのが見つかった。その後、脇には「この大根を優しく見守りましょう」の立て札も立てられた。
  - ・ この大根は「ど根性大根」の大ちゃんとして人気を集めた。11月に上半分が折られ行方不明となったが、間もなく戻され、相生市役所で水耕栽培された。
  - ・ 弱ってきた大ちゃんは、翌年の2月に宝塚市の医農薬研究会社で「コピー大根」を作るための“手術”を受け、バイオ栽培によって再生された。
  - ・ 今は、相生市の畑で大ちゃんの子孫が元気に育てられ、相生白龍城の青空市場や相生農協等で売られている。
- 関連情報
  - ・ このど根性大根の大ちゃんをモチーフにした絵本「がんばれ大ちゃん」が、当時相生市役所に勤めていた宮崎あゆみさんによって出版された。その後、「もっと！がんばれ大ちゃん」も出版されている。
  - ・ ど根性大根の発見場所には、路面から伸びようとする姿と「ど根性大根『大ちゃん』」の文字を白黒二色でデザインした「アート舗装」と呼ばれる特殊なアスファルト舗装がされている。また、市役所や道の駅あいおい白龍城にも大ちゃんの姿が描かれている。
  - ・ 両足で踏ん張る「大ちゃん」を型押ししたクッキーも発売されている。

4 展開の具体例

- ・ **主 題 名** ・ 命を大切にすること D (17)
- ・ **資料の概要** ・ 道路を突き破り生えている大根に「大ちゃん」と名づけたさやかは、たくましく育つその様子に勇気を与えられ、成長をあたたく見守る。ある日、根元から折られた様子を見つけたさやかは悲しみに沈む。しばらく立って元の場所に戻されたしおれた「大ちゃん」の様子を見て心配するさやかであったが、市役所のおじさんから「大ちゃん」の元気を取り戻し、生命を増やす計画を教えてもらい、笑顔で「大ちゃん」を励ます。
- ・ **ね ら い** ・ 市役所のおじさんから「大ちゃん」再生の計画の話聞いて、笑顔で「大ちゃん、がんばれ」と励ますさやかを通して、生命を大切にしようとする道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本P48の写真(大ちゃん)を見ましょう。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・ゆうじと相談して立て札をおいた時の主人公の気持ちを考える。	立て札を大ちゃんのそばにおきながら、さやかはどんなことを思っていたのでしょうか。 ・みんな、大ちゃんを踏まないでね。 ・大ちゃんは生きているんだよ。 ・私を励ましてくれた大ちゃんを大切に育てたいな。
	・大ちゃんが折られ、悲しむ主人公の気持ちを考える。	大ちゃんが折られてしまっただけで、目からなみだがあふれるさやかは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・大ちゃん、どこに行っちゃったの? ・大ちゃん、死んじゃったのかな。 ・大ちゃん、痛かっただろうね。かわいそうに…。
	・元の場所に戻された大ちゃんを見ている主人公の気持ちを考える。	すっかりしおれてしまった大ちゃんを見たさやかは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・戻ってきたけれど、大ちゃん、だいじょうぶかなあ。 ・また、元気になるかなあ。 ・大ちゃん、死んじやいやだよ。
	・市役所のおじさんの話を聞き、にっこりする主人公の気持ちを考える。	ゆうじと顔を見合わせて、にっこりするさやかは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・大ちゃんが元気になるんだって、よかったね。 ・大ちゃんががんばれ! ・だいちゃんの子どもがいっぱいできるんだって、楽しみだね。 ・おじさん、大ちゃんの命を助けてくれてありがとう。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

大ちゃんを見るたびに励ましてくれているような気がしていた主人公は、大ちゃんを「生きている仲間」と感じていることをおさえる。

大ちゃんが折られ、命が奪われたように感じて悲しむ主人公の心に共感させる。

元の場所に戻されたが、すっかりしおれてしまった大ちゃんを見て、大ちゃんの命を心配する主人公の心を考えさせる。

市役所のおじさんの話がきっかけとなり、大ちゃんの生命の力や共に生きている愛おしさを感じている主人公の心情の高まりをおさえる。

【p56～p61】 生まれかわるけしき —淡路夢舞台—

## 1 資料活用にあたって

- 長文のため、前日までに家に持ち帰らせて家族と一緒に読ませておく。授業では、紙芝居や場面絵・写真をもとに語り聞かせるなどの工夫をして、話の筋を理解させると良い。
- 本資料は、森の下草刈りのボランティアに取り組んでいるお父さんの心を考えさせる際に、「みんなのために働こう」に焦点をあてれば内容項目はC（12）になり、「自然や動植物を大事に守り育てよう」に焦点をあてれば内容項目はD（18）になる。

## 2 資料の読み方のポイント

- ※ 展開の具体例は、内容項目C（12）の展開を想定している。
- 変化するのは：たかし（子どもが たかし になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：ガイドのおじさんの話
- 変化するところは：「たかしは、お父さんが下草かりのボランティアをしていることを思い出し、森の方を見ました。」

## 3 読み物資料の素材について

### 【訪れたい場所】

- ・ 淡路夢舞台  
〒656-2306 淡路市夢舞台2番地 TEL：0799-74-1000
- 淡路夢舞台について
  - ・ 淡路夢舞台は、淡路島の東岸（淡路市）の海を望む高台にある自然豊かな観光名所である。かつてここは、緑豊かな淡路の森であったが、1963年～1994年の31年間、関西国際空港など大阪湾を埋め立てる土を採取したため、草木の生えない、動物も昆虫もすめない荒地となった。そこで、一度は人間が壊した自然を本来の姿に戻し、さまざまな動物や植物と人が共生できる空間の創造をめざして、100年後の森の再生に向けた取り組みが1994年にスタートした。
  - ・ 6年間で荒地は、緑豊かな風景に変わり、2000年には国際園芸・造園博「ジャパンプローラ2000」の会場となった。淡路夢舞台には、国営明石海峡公園や植物園、国際会議場などがあり、県内外から多くの人々が訪れ、親しまれている。
  - ・ 淡路夢舞台では、訪れた人たちに自然を守る大切さを知ってもらうためボランティアグループによる環境学習が実施されている。
- 森の再生について（ガイドボランティア竹元忠嗣氏からの聞き取りによる）
  - ・ 森の再生には、いろいろな工夫や人々の努力があった。淡路の森をとりもどすために、みんなで力をあわせて木を植え、森を育てようと、淡路の小学生がどんぐりの実や木のたねを集めた「ばべの実五万つぶ大作戦」。集めた実やたねを苗木に育て、岩だらけの急な斜面に植えた。
  - ・ 岩だらけの急な斜面では、苗木を植え、土をかぶせても雨が降ると、土が流されてしまう。そこで、斜面に蜂の巣のような形の囲いを作り、そこに土を入れて苗木を植えた。また、低いところにたまった雨水をポンプで高いところにくみ上げ、地面が乾いてくると、自動で水を出せるようにしたり、苗木の根元をわらでおおって、乾かないようにしたり、雑草が生えにくくしたりした。
  - ・ 現在、最初に植えた木々は、大きく生長し、以前からあったような森の姿になってきている。ウサギなどの小動物、蝶やくわがた虫などの昆虫、いろいろな鳥がやってきている。また、あちこちに落ちた実から、新たな苗木が育ってきている。しかし、本来の淡路の森に戻ったとはまだ言えない。もともとの淡路の森に生えている木々の種を鳥や動物や風が運んできて、その種が芽を出し何十年もかけてゆっくりと元通りの姿にもどっていくのである。そのためには、自然の力だけではなく、まだまだ人の手間がかかる。その一つが森の下草がりである。下草が生えていると、運ばれてきた種は、大地に根を下ろすことができず、芽を出すことができない。運ばれてきた種から芽がでて苗木に育つためには、下草を刈り、森の手入れをしなければならないのだ。一度壊した自然を元に戻すには、まだまだ多くの人々の手間と時間が必要なのである。

## 4 展開の具体例

- ・ **主 題 名** ・ みんなのために C (12)
- ・ **資料の概要** ・ 日曜日の朝、一緒にキャッチボールをしようと思っていたおとうさんがボランティアに出かけてしまい、たかしはがっかりする。次の日曜日に公園のガイドツアーに参加したたかしは、ガイドのおじさんから自然を復元・保全するための人々の取組を聞き、お父さんが森の下草かりのボランティアに取り組んでいる気持ちに気づく。
- ・ **ね ら い** ・ ガイドのおじさんの話を聞いて道徳的に変化するたかしを通して、働くことのよさを感じて、みんなのために働こうとする道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ	副読本P57とP61の写真を見ましょう。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・日曜日の朝起きた時の主人公の気持ちを考える。	朝起きて、お父さんがいなかったことを知ったたかしは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・お父さんとキャッチボールしたかったのに、がっかりだな。 ・どうして、日曜日なのにお父さんは、ボランティアに行くの。
	・お父さんが下草かりのボランティアをしていることを思い出した主人公の気持ちを考える。	たかしはどんなことを思って、森の方を見たのでしょうか。 ・下草かりは、たねがちゃんと芽を出すための大切な仕事なんだ。 ・お父さんは、緑の森をとりもどすために下草かりをしていたのか。 ・お父さんは、みんなのためにお休みの日に働いていたんだね。
	・下草かりをしているお父さんの顔を思い浮かべているときの主人公の気持ちを考える。	汗をいっぱいかいて下草かりをしているお父さんの顔を思いうかべながら たかしは、どんなことを考え始めていたのでしょうか。 ・お父さんは、みんなのために働いていたんだね。 ・お父さんが帰ってきたら下草かりのことを聞いてみよう。 ・ぼくも今度は、お父さんといっしょに下草かりに参加してみよう。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

キャッチボールをしようと思っていたのに、お父さんが出かけていてがっかりしている主人公に共感させる。

ガイドのおじさんの話がきっかけとなり、お父さんがしている下草かりの大切さに主人公が気づいていることをおさえる。

みんなのために働くことの大切さを意識し始めている主人公の心情をおさえる。

【p68～p71】 おじいちゃんのふえ —三木市 小林のししまい—

## 1 資料活用にあたって

- 本資料は、粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力の大切さに気付くひろしの姿を描いたものである。ひろしとおじいちゃんの関係の変化を読みとらせる資料ではないので、家族愛の内容で取り扱うのは適切ではない。

## 2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：ひろし（子どもがひろしになって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：おじいちゃんの「だれでもさいしょはへたくそや。そやけどむずかしいきょくもみんなでふくと楽しかったで。」という言葉
- 変化したところは：「ぼくもじょうずにふきたいねん。」

## 3 読み物資料の素材について

### 【参考資料等】

- ・ 三木市伝統文化こども教室

### 【参考URL】

- ・ 三木市教育委員会 教育総務部文化・スポーツ課  
<http://www2.city.miki.lg.jp/miki.nsf/39f1c87d0d44690349256b000025811d/3ca478c9086094944925714d00259ae6?OpenDocument>

### ○ 三木市小林の獅子舞について

- ・ 三木市に存在する多数の神社には、それぞれの地域の人の願いから生まれた、奉納の屋台や獅子舞などの伝統文化が存在する。多数の氏子が存在し、かかわっている人の多い三木祭りなどでは、それにまつわる伝統芸能は今も盛んである。しかし、地域に伝わる伝統文化の中には、次代の担い手が少なく、どんどん消えていっているものも多い。獅子舞の鳴り物の楽曲でも横笛など習得が難しいものは、伝える人がいないまま忘れ去られていっている。昔は、もっと多くの曲が存在したが、現在では数曲が残っているのみである。次代を担う子どもたちを育てていくことが伝統文化を残していくためには必要である。
- ・ 三木市では、小林などいくつかの地区において、話し合いが持たれ、小・中学生を集めて、その文化を受けついでいってもらおうという活動を行っている。
- ・ 小林地区では、現在地区の公民館で週1回、夜に練習を行っている。幼稚園や1年生に横笛を持たせると、吹きたいと思っても音が出るまでにはかなり時間がかかる。ましてや曲を吹くとなると大変である。しかし、祖父や地域の大人、そして、中学生と一緒に練習するうちに少しずつ上手になっていく。

## 4 展開の具体例

### おじいちゃんのふえ —三木市 小林のししまい—

- ・ **主 題 名** ・あきらめない心 A (5)
- ・ **資料の概要** ・祭りの出し物である獅子舞の鳴り物の練習に参加しているひろしは、横笛が上手に吹けずにおちこんでいた。ある日、祖父が子どもの頃、同じように横笛を練習しており、今も上手に吹くことがわかる。祖父と共に練習しはじめたひろしは、努力することの充実感を味わい、祭りに参加する意欲を高める。
- ・ **ね ら い** ・おじいちゃんとのふえの練習で道徳的に変化するひろしを通して、何事にも粘り強く努力しようとする道徳的実践意欲を育てる。

#### ・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	お祭りに行ったことがありますか。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・公民館から出てきた時の主人公の気持ちを考える。	一人で公民館から出てきた時、ひろしはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・お兄さんたちのように上手に吹けないな。 ・練習しているのにできずにくやしいな。 ・お祭りに出るのはやめようかな。
	・家で練習しながら、泣きそうになっている主人公の気持ちを考える。	家で練習を始めたが、いい音が出せず、泣きそうになっているひろしは、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・ああ、やっぱりだめだ。 ・どうしても上手く吹けないよ。 ・お祭りに出るのはあきらめよう。
	・おじいちゃんと一緒に練習したいと思うようになった主人公の気持ちを考える。	おじいちゃんと練習している時、ひろしはどんな気持ちになったのでしょうか。 ・おじいちゃんが一緒にふいてくれて心強い。 ・おじいちゃんのおかげで、うまくふけてうれしい。 ・上手になって、楽しくなってきた。 ・楽しくなってきたから、もっと練習しよう。 ・もっと練習して上手になる。
	・ぎゅっと笛をにぎりしめている時の主人公の気持ちを考える。	笛をぎゅっとにぎりしめたひろしは、どのようなことを考えているのでしょうか。 ・あきらめずにおじいちゃんと練習してよかった。 ・もっと練習しておじいちゃんのように上手になるよ。 ・お祭りではがんばるから、おじいちゃん見に来てね。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

笛を上手に吹けるようになろうという気持ちはあるが、うまくできずに気落ちしている主人公の心に共感させる。

どうしても笛を上手に吹けずに落ち込み、向上心を持って努力する気持ちが弱くなっていることをおさえる。

おじいちゃんの話がきっかけとなり、向上心を持って努力する意識が主人公に起こっていることをおさえる。

笛の上達をおじいちゃんに認められ、向上心を持って努力する意識が高まり、主人公が「もっと上手になるぞ」という実践意欲を強めていることをおさえる。

## 【p 80～p 83】 たんばやきのふるさと

### 1 資料活用にあたって

- 事前または事後に、遊びや生活科などの学習を通して、家庭や学校を取り巻く郷土の文化に触れる体験をさせることが望ましい。

### 2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：ぼく（子どもが ぼく になって考えられるように発問を工夫する。）
  - ※ ぼくは、はじめは郷土を意識していないが、陶器が自分の住んでいるたんばの伝統的な品物であること、毎日使っている茶わんもたんば焼きであることを知って、郷土に誇りと愛着を持つ。
- 変化するきっかけ（助言）は：「毎日 つかつとのお茶わんも たんばやきなんやで。」
- 変化するところは：「えっ、ほんま？」

### 3 読み物資料の素材について

#### 【参考文献等】

- ・ 丹波篠山市小学校社会科副読本「わたしたちの篠山市」

#### 【参考URL】

- ・ 丹波篠山市（「丹波ぶらり散歩道」）  
<http://www.city.sasayama.hyogo.jp/index.html>
- ・ 丹波伝統工芸公園 立杭陶の郷  
<http://www.tanbayaki.com/>
- ・ 兵庫県立兵庫陶芸美術館  
<http://www.mcart.jp/>

#### 【訪れたい場所】

- ・ 丹波伝統工芸公園 立杭陶の郷  
丹波篠山市上立杭3 TEL：079-597-2034
- ・ 兵庫県立兵庫陶芸美術館  
丹波篠山市上立杭4 TEL：079-597-3961
- ※ 両館とも陶芸教室が開講されている。また、丹波篠山市立今田小学校にも登窯がある。

#### ○ 丹波焼について

- ・ 立杭焼とも丹波立杭焼とも呼ばれ、日本六古窯（瀬戸・常滑・越前・信楽・丹波・備前）の一つとして有名である。起こりは平安末期の須恵器から発展し、慶長末期ごろ（1610～1615年）になると、山の斜面を利用した登窯が開発された。鉢や皿、壺、茶器をはじめ生活用品を中心に高級な工芸品まで作られるようになった。
- ・ 現在、丹波篠山市今田町上立杭、下立杭、釜屋地区には丹波焼きの窯元が約60軒あり、伝統を守りながら新しい技法を加えて、たくましく美しい工芸作品を作り続けている。丹波立杭窯（作窯技法）は国指定重要無形文化財、登窯一基が県指定民族文化財、丹波焼古窯跡は県指定史跡となっている。
- ・ 毎年10月の第3土曜日・日曜日には「丹波焼・陶器まつり」が開催され、大勢の人で終日にぎわう。

## 4 展開の具体例

- ・ **主 題 名** ・ふるさとの自慢 C (15)
- ・ **資料の概要** ・父と出かけた陶器祭りで丹波焼に興味を持ったぼくが、登り窯を見て、ますます親しみを感じ、ふるさとの焼きものづくりへの気持ちを高めていく。そして、できあがった作品を母に自慢している自分の姿を想像し心を躍らせ、ふるさとに伝わるもののよさを感じはじめる。
- ・ **ね ら い** ・お父さんに、毎日使っている茶碗も丹波焼だと聞かされて道徳的に変化するぼくを通して郷土の文化に親しみ愛着を持つ道徳的心情を育てる。

・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	(丹波焼等の写真を見せながら) このような焼き物を見たことがありますか。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・陶器祭りでお父さんから丹波焼のことを教えてもらった時の主人公の気持ちを考える。	陶器祭りでお父さんから丹波焼のことを教えてもらったぼくは、どんなことを思ったのでしょうか。 ・そんなに有名なものが、ぼくの町の近くで作られていたんだな。 ・ずっと昔から伝えられてきたってすごいな。
	・登り窯を見ている時の主人公の気持ちを考える。	登り窯を見せてもらったぼくは、どんなことを思ったのでしょうか。 ・土のかたまりがここで丹波焼になるんだな。 ・ぼくの恐竜もここで丹波焼になったんだね。 ・昔の人がこんな窯を発明したなんてすごいな。
	・丹波焼を日常使っていることを知った時の主人公の気持ちを考える。	「えっ、ほんま？」と言った時、ぼくは、どんなことを思ったのでしょうか。 ・こんなすごいものを毎日使っているなんて、何だかうれしいな。 ・丹波焼は、ぼくたちの身近なものなんだね。
	・母に丹波焼の自慢をする主人公の言葉を考える。	ぼくは、お母さんに何と言って丹波焼きの自慢をしたいと思っているのでしょうか。 ・これって、登り窯っていうトンネルで焼いたんだよ。 ・丹波焼はずっと昔から伝わっているものなんだよ。 ・丹波焼は、自慢できるぼくたちの宝物なんだよ。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

日本でも有名で伝統的な焼き物が、自分たちの地域で作られていることを知った主人公の心を考えさせる。

登り窯を見て驚いている主人公の心に共感させる。

お父さんから丹波焼を家で毎日使っている話を聞いたことがきっかけとなり、主人公が丹波焼を身近で親しみのあるものを感じていることをつかませる。

「お母さんに丹波焼きのことを自慢したい」という気持ちになった主人公の郷土を愛する心情の高まりをおさえる。

【p84～p87】 つながるいのち 一朝来市 糸井の大カツラ

## 1 資料活用にあたって

- 本資料のP85、P87の写真をプロジェクターで拡大して映すなど、資料提示の工夫をすると、子どもたちは共感的に疑似体験しやすいので、なお一層効果的である。
- 低学年の学年段階を考慮すると、生命のつながりなど生命について知的に理解する資料として扱うことはふさわしくない。大カツラの不思議さ、生命の力、そして、共に生きていることの愛おしさなどを感じることによって、自然や植物を大事に守り育てようとする心情を育てる資料として扱う。

## 2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：わたし（子どもが「わたし」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：糸井の大カツラ
- 変化するところは：「お日さまにてらされてきらきら光るはっぱがわたしたちに話しかけているようでした。」

## 3 読み物資料の素材について

### 【参考文献等】

- ・ 「但馬の巨木 100選」社団法人 兵庫県林業会議
- ・ 「但馬風土記」但馬文化協会（発行）小谷茂夫編集代表
- ・ 「ひょうごの自然歩道ガイド」神戸新聞総合出版センター、兵庫県自然環境保全課（編集）

### ○ 糸井の大カツラについて

- ・ カツラ（カツラ科・カツラ属）
- ・ 国指定天然記念物（1951年6月9日指定）
- ・ 場所 兵庫県朝来市和田山町竹ノ内
- ・ 幹周 19.2m
- ・ 樹高 35.0m

- ・ カツラの雄株で、主幹は朽ち、大小84のひこばえ（※）が主幹の周囲を取り囲むように林立していて、一見カツラの森のように見える。朽ちた主幹の広さは約10平方メートルあり、主幹の推定樹齢は2000年ともいわれる巨木である。土地の人はこのカツラを衣木（ころもぎ）とも呼び、昔、大ひでりが続いたとき、名僧を招き雨乞いをしたところ、霊験があらたかであったという。その際、この樹に衣をかけたことから衣木と呼んでいる。

### ※ひこばえ

蘗（ひこばえ）とは、樹木の切り株や根元から生えてくる若芽のこと。太い幹に対して、孫（ひこ）に見立てて「ひこばえ（孫生え）」という。

## 4 展開の具体例

- ・ **主 題 名** ・ 自然を大切に D (18)
- ・ **資料の概要** ・ 遠足で大カツラの木を見たわたしたちは、その大きさと美しさに歓声をあげる。最初の木の栄養をもらって大きくなった80本ほどの「ひこばえ」が最初の木を守り、二千年も生き続けていることを知ったわたしは、木の中に入って自分を囲むひこばえを仰ぎ見ながら、生命のつながりや自然のすばらしさを実感する。
- ・ **ね ら い** ・ 糸井の大カツラの中に入って自然の不思議さを体験したわたしを通して、自然に親しみ、動植物に優しい心で接しようとする道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	
導 入	・ 今日の資料に興味を持つ。	副読本P85の写真(糸井の大カツラ)を見ましょう。	木の大きさを実感させながら、大カツラの様子を理解させる。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の範読を聞きながら黙読をする。</li> <li>・ 近づいて木を見た時の主人公の気持ちを考える。</li> <li>・ 命のバトンタッチのことを先生から教えてもらった時の主人公の気持ちを考える。</li> <li>・ 木の中から空を見上げた時のわたしの気持ちを考える。</li> </ul>	<p>木に近づいたわたしは、どんなことを思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠くからは一本の大きな木に見えていたよ。</li> <li>・ たくさんの木が集まっているよ。何本くらいあるのかな。</li> <li>・ たくさんの木は兄弟の木なのかな。</li> </ul> <p>「二千年も。すごいなあ。」と言いながら、わたしはどんなことを思っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二千年もすごいなあ。</li> <li>・ バトンタッチしながら大切に命を守ってきたんだね。</li> <li>・ なんだか不思議だなあ。</li> </ul> <p>木の中から空を見上げたわたしは、どんなことを考えているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ずっとバトンタッチを続けて、長生きしてね。</li> <li>・ 自然の力ってすごいな。</li> <li>・ バトンタッチができるように、みんなでこの木を大切にすからね。</li> </ul>	<p>何本もの木が集まっている様子を見た時の主人公の驚きや不思議に思う心に共感させる。</p> <p>植物の不思議さや生命の力を感じ、自然愛護の意識が主人公に起こっていることをおさえる。</p> <p>大カツラの中に入って体中で自然の不思議さを感じ、自然に優しく接しようという気持ちになっている主人公の心情の高まりに気付かせる。</p>
終 末	・ 感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。	

【p90～p93】 ささべざくら —笹部新太郎—

## 1 資料活用にあたって

- 笹部さんの努力に焦点を当てると内容項目はA(5)であるが、本資料は笹部さんが抱いていた大きな夢に焦点を当て、内容項目をC(15)で扱う。
- 先人を素材とした資料の場合、努力を続けることは誰しもあることで、その努力のみ書いてある資料はA(5)で扱い、努力を支えた大きな夢が描かれている場合は、その夢で内容項目を定める。

## 2 資料の読み方のポイント

- 変化するの：あすかちゃん(子どもがあすかちゃんになって考えられるように発問を工夫する。)
- 変化するきっかけ(助言)は：おばあちゃんのささべ桜にまつわる話
- 変化するところは：「おばあちゃんが手のひらにのせてくれたきれいなさくらを見ている」

## 3 読み物資料の素材について

### 【参考URL】

- ・ 六稜大阪学講座「笹部桜考」  
<http://www.rikuryo.or.jp/home/column/sasabe.html>
- ・ 櫻守の会  
<http://www.sakuramori.net/category/934603-1.html>

### 【訪れたい場所】

- ・ 自然公園「桜の園・亦楽山荘」(宝塚市切畑)
- ・ 白鹿記念酒造博物館  
〒662-0926 兵庫県西宮市鞍掛町8-21 Tel.0798-33-0008
- ・ 岡本南公園(神戸市東灘区)
- ・ 西宮市北山緑化植物園(西宮市北山町)
- 笹部桜について
  - ・ 神戸市東灘区にあった笹部邸の庭に生えた実生の桜で、カスミザクラとオオシマザクラ系のサトザクラの交配種。(現在は、「岡本南公園」として神戸市により整備されている。)
- 笹部新太郎について
  - ・ 大阪の堂島に生まれた笹部氏は東京帝国大学法科(元東京大学法学部)在学中から桜の研究をはじめ、本来の日本の桜であるサトザクラ、ヤマザクラの保護育成に生涯を捧げた。
  - ・ 1912年、兄から譲り受けた土地(宝塚市切畑長尾山)に演習林を作り、サクラの品種保存や接ぎ木などの研究を行った。当時は、全国から集められたヤマザクラやサトザクラが30種、5000本以上も植えられていた。笹部氏は、この演習林を「亦楽山荘(えきらくさんそう)」と名付けたが、現在では「桜の園」として知られている。
  - ・ 戦争中には、若い園丁たちが次々に兵隊にとられ、演習林の管理が充分にできなくなると、物資不足の世の中で毎日のように盗難被害にあった。
  - ・ 戦後もしばらく物不足の状況は続き、出征した園丁たちの多くは戻ってこなかった。その上、農地改革で資産を大幅に減らし、今まで所有していた土地を守ることに苦勞した。その後は、経済的にも年齢的にも、それまでのように多量の植樹を行えなくなり、アドバイザーとしての活動が主になった。
  - ・ 大阪造幣局の通り抜けの桜、西宮夙川、甲山周辺の桜の管理指導など多くの桜に関する事業を手掛けたが、なかでも1960年に行われた岐阜県御母衣ダムの建設で、水没する荘川桜(エドヒガン、樹齢400年)の移植は世界の植林史上においても稀有の業績と評価されている。  
また、桜に関する書画や美術工芸品、書物などを数多く収集し、それらの資料は西宮市に寄贈され、現在、財団法人白鹿記念酒造博物館付設笹部さくら資料室に所蔵されている。
  - ・ 水上勉氏の小説「櫻守」に登場する「竹部庸太郎」は、笹部氏をもモデルにしている。

## 4 展開の具体例

ささべざくら — 笹部新太郎 —

- ・ **主 題 名** ・ふるさとのために C (15)
- ・ **資料の概要** ・おばあちゃんとお花見に来たあすかは、「笹部桜」という名前の桜の木の存在を知る。そして、あすかは、桜の名前の由来となった笹部さんの苦労や頑張りについての話をおばあちゃんから聞く。きれいな桜を目の前にして、桜を守り育てるために努力を続けた笹部さんの気持ちを考えながら、二人は笑顔を輝かせた。
- ・ **ね ら い** ・おばあちゃんから笹部桜にまつわる話を聞いて道徳的に変化するさやかを通して、郷土に愛着を持つ道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ	お花見に行ったことがありますか。
展 開	・教師の範読を聞きながら黙読をする。 ・桜を見上げた時の主人公の気持ちを考える。	「すごいなあ。」と言って大きな桜を見上げた時、あすかちゃんはどんなことを思ったのでしょうか。 ・桜に名前がついているなんてすごいな。 ・桜を守って未来に残そうとしたんだね。
	・ささべさんの思いを想像している主人公の気持ちを考える。	あすかちゃんは、ささべさんのどんな気持ちがわかったのでしょうか。 ・放っておいたらこの美しい桜がなくなってしまう。 ・昔からこの場所にある美しい桜を守りたい。 ・ふるさとのみんなに桜を楽しんでほしい。
	・きれいな桜を見てほほえむ主人公の気持ちを考える。	おばあちゃんと顔を見合せてにっこりほほ笑んでいるあすかちゃんはどんなことを思っているのでしょうか。 ・ささべさん、今年もお花を見せてくれてありがとう。 ・わたしもふるさとの宝物を守っていくからね。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

おばあちゃんから笹部桜の名前の由来を聞き、主人公が笹部さんのことを漠然と「すごい人だな」と感じていることをつかませる。

手のひらの一輪の桜を見つめながら、「ふるさとの桜を守って未来に残そう」という気持ちで笹部さんが頑張り続けたことに主人公が気付いたことをおさえる。

笹部さんの姿を思い浮かべ、ふるさとのことを大切に思う気持ちを強めている主人公の心情の高まりをおさえる。

# 「メッセージ」の活用について

この副読本に掲載している「メッセージ」は、他の読み物資料のように道徳科で中心資料として扱うことも可能であるが、その他の学校における教育活動での活用や、家庭において親子で話しあう機会とするなど、各校において工夫した多様な活用が考えられる。

## 1 「メッセージ」の趣旨

この副読本は、郷土に誇りを持ち、人と人とのつながりや社会の中での自己の責任や義務、役割を自覚するなど、自己の生き方のよりどころとなるような子どもの心に響く魅力あるものとなるように願って作成している。

そこで、兵庫にゆかりのある方々が、これまでの人生において心を動かされたあるいは揺さぶられた体験、生き方の支えになっている体験等をもとに、地域の先輩として、人生の先輩として、兵庫の子どもたちに伝えたいことや願いを以下 2 で示す大切にしたい内容を踏まえたメッセージとして掲載している。

## 2 「メッセージ」で大切にしたい内容

大切にしたい項目	内 容 (小学校)
自他の生命を尊重する心	生命の大切さに関するものであり、生命あるすべてをかけがえないものとして尊重し、大切に育てる児童を育てる。
ルール・公德心 (規範意識)	児童が生活する上で必要とされる社会規範を守るとともに、公德心を持ち、それらの精神を日々の生活の中に生かしていく児童を育てる。
礼儀	他の人とのかかわりにおける習慣の形成に関するものであり、状況をわきまえて心のこもった適切な礼儀正しい行為ができる児童を育てる。
自由と責任	自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を大切に育てる児童を育てる。
勤労	仕事に対して誇りや喜びを持ち、働くことの意義を自覚し、進んで社会に役立とうとする心をもった児童を育てる。
他人を思いやる心	他の人に接するときの基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心を持ち実践のできる児童を育てる。
郷土を愛する心	郷土とのかかわりに関するものであり、郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもった児童を育てる。
国際理解	国際理解と親善の心をもった児童を育てる。
家族を愛する心	家族集団とのかかわりに関するものであり、家族や家庭を愛する心をもった児童を育てる。

### 3 多様な場面での子どもの活用とそれを促す工夫

#### (1) 学校や家庭の日常生活の中で子どもが活用する

子どもが学校や家庭の日常生活の中で活用する。例えば、学校においては朝の会・帰りの会や読書タイムなどで、また、休み時間や放課後などの自由な時間での活用が考えられる。さらに、家庭においても、子どもが自由に活用したり、家族と話題にしたりすることが期待される。そのために、例えば、日にちを決めて持ち帰る時間を設定したり、長期休業中の活用を促したりするなど、家族と話題にしたり、保護者がメッセージを活用し、子どもに助言したりすることなどが考えられる。

#### (2) 道徳科で活用する

道徳科の教材として「メッセージ」を活用することもできる。ただ、道徳科においては補助的な資料として用いることが多いと考えられるが、指導計画に位置づけて生かすことも考えられる。

道徳科においては、例えば、次のような場面で活用することが考えられる。

- ①展開段階の中心的な資料として、ある内容項目に関する学習に生かし、内容を深める。
- ②終末段階の題材として、学習したことの明確化を図るために用いる。
- ③導入段階の題材として、道徳的価値に関心を持たせる。

#### (3) 総合的な学習の時間の動機付けや自己の生き方を考える際などに活用する

総合的な学習の時間においても活用することができる。子どもが興味・関心を大切にし、自ら課題を見つけ、探究的な見方・考え方を働かせ、自己の生き方についての考えを深める体験的、問題解決的な学習を行う際、「メッセージ」を課題を見つけるヒントにしたり、体験的な学習への動機付けとしたりして役立てることができる。

#### (4) 特別活動の各内容と関連させて活用する

特別活動の、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事においても活用することができる。小学校においては、例えば、学級活動(3)、とりわけ「現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」や「社会参画意識の醸成や働くことへの意義の理解」にかかわる指導などで生かすことができる。また、学級活動(1)においても、協力して楽しい学級や学校の生活づくりに参画する自主的な取組などの中で活用することができる。さらに、学校行事においては、例えば、様々な活動の事前指導や事後に体験したことを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動、動機付けを図る際の題材などとして生かすこともできる。

なお、学級活動(1)などの子どもの自発的、自治的な実践が中心となる活動においては、教師が助言等で補助的に用いるなどして、子どもの自主的、実践的な態度がはぐくまれるよう配慮することが大切である。

#### (5) 家庭や地域との連携

「メッセージ」は、大人が読んでも心に響き、生き方を考えることのできる内容である。学校で、家庭で、また地域社会などで子どもと一緒に話し合い、子ども理解を深める題材とすることができる。各校においては、学年通信や保護者会などで紹介し、学校と家庭が連携した道徳教育の推進に活用できる。例えば、教師、保護者、地域の人々による懇談会などで道徳教育について話題にすると、「メッセージ」の内容を提示することによって、道徳教育への共通理解を深めることができる。また、道徳科の公開授業での活用、各種通信や地域掲示板などでの活用等によって、連携を具体化させることができる。